

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	19	学校名	静岡県立沼津西高等学校	校長名	鈴木 康之
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	主体的な学びを通して、論理的思考力、コミュニケーション力、表現力を有する生徒を育成する。	・「自分の進路目標実現に向けて、主体的に授業や家庭学習に取り組んでいる」と回答する1年生 50%以上、2年生 70%以上、3年生 90%以上	「自分の進路目標実現に向けて、主体的に授業や家庭学習に取り組んでいる」と回答した1年生 66.5% 2年生 70.3% 3年生 93.4%	A	保護者アンケートによる進路指導に対する満足度においても高い評価を得ることができた。業務削減の中でいかに充実した進路指導を行えるかを考えていきたい。来年度から始まる新課程入試への対応が最大の課題である。
		・「自分の意見や考えたことを表現したり伝えたりする力が付いている」と回答する生徒 70%以上	「自分の意見や考えたことを表現したり伝えたりする力が付いている」と回答した生徒 74.0%	A	全校生徒の回答では 70%以上であったが、学年別としては2年生が 66%と目標に届かなかった。各授業において、表現力の向上に努めていきたい。
		・授業参観や校内研修を通して「自分の授業改善に取り組んだ」と回答する教員 100%	研究授業週間の時期、形態を変えて実施。 「自分の授業改善に取り組んだ」と回答した教員 100%	A	授業改善に向け、比較的、工夫や改良に取り組みやすい時期に研究授業週間を実施した。教員全員が授業改善に取り組むことができた。一層の充実に向け、継続して積み重ねていきたい。
		・「朝読書が充実した」と回答する生徒 80%以上	「朝読書が充実した」と回答した生徒 92.2%	A	教員の共通理解のもと、全体的にきちんと取り組ませることができた。情報発信や啓蒙活動を工夫し、読書の魅力を伝え、より自発的な活動へとつなげていきたい。
イ	高い志を持ち、社会的自立に必要な資質・能力を身につけた生徒を育成する。	・「毎日の健康観察を含め、心身の健康保持に努めた」と回答する生徒 90%以上	「毎日の健康観察を含め、心身の健康保持に努めた」と回答した生徒 88.9%	B	目標に対する生徒の回答が3学年とも 90%を超えなかった。コロナ禍の落ち着きにより、健康観察がなくなったため、意識の低下が見られる生徒も見受けられる。引き続き、意識的な啓発を行っていきたい。
		・「気持ちの良い挨拶ができる」と回答する生徒 80%以上	「気持ちの良い挨拶ができる」と回答した生徒 87.4%	A	生徒の回答と職員の印象との間に若干の差も感じられる。内面の成長を促せるよう、指導を工夫し、継続的に働きかけていきたい。
		・「服装はいつもしっかりしている」と回答する生徒 90%以上	「服装はいつもしっかりしている」と回答した生徒 95.8%	A	昨年度の校則変更を受けて、生徒自身も主体的に校則をとらえて判断し、行動していることがアンケート結果からうかがえた。必要に応じて変更の検討を継続していきたい。
		・進路目標が明確な1年生 70%、2年生 80%、3年生 90%	「明確な進路目標がある」と回答した1年生 57.0% 2年生 78.1% 3年生 91.5%	B	様々な進路行事、模試等を通し、キャリア教育の観点から進路目標を明確にさせていきたい。学年の進行による成熟は前提だが、1年生への指導の改善は対応する必要がある。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・「進路行事が有意義だった」と回答する生徒65%以上 	<p>「進路行事が有意義だった」と回答した生徒71.7%</p>	A	<p>社会人講座や進路講演会等、前年度に工夫を加えることで、充実した進路行事を実施することができた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の成長を目指して、学校とPTAの連携が取れている」と回答する保護者70%以上 	<p>「生徒の成長を目指して、学校とPTAの連携が取れている」と回答した保護者60.8%、「判断できる材料がない」保護者21.8%</p>	B	<p>PTA 総会・クラス懇談会・地区会に参加してよかったと回答は80%以上であった。外部団体と適切な連携を持ち行事を運営した。特に本部役員との意思疎通に重点を置き、本年度の活動反省を元に来年度への展望が測れた。「判断できる材料がない」と回答した保護者を減らすことのできるよう、より積極的に広報・啓発活動を続けていきたい。</p>
ウ	<p>特別活動や部活動等を通して、心身ともに健康で人間性・社会性が豊かな生徒を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「クラス、学年、学校のために活動し、役に立ったことがある」と回答する生徒70%以上 	<p>「クラス、学年、学校のために活動し、役に立ったことがある」と回答した生徒92.2%</p>	A	<p>昨年度と比較して自己の活動を肯定できる生徒の割合が増加した。身近な達成感を積み重ねて、自己肯定感を高めていく指導を継続していきたい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・県大会以上出場部活動15部以上 	<p>(12月末現在) 県大会以上出場 17部活動 (東海大会出場 2部活動) (全国大会出場 3部活動)</p>	B	<p>全24部中、上位の大会へとつながる活動をしている部は19部である。困難を乗り越え結果につなげる体験が自己肯定感に、部員間での交流が他者の受容へとつながっている。広報の充実を含め、引き続き、部活動の活性化を推進していく。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・「興味を持って主体的に部活動に取り組んでいる」と回答する生徒80%以上 	<p>「興味を持って主体的に部活動に取り組んでいる」と回答した生徒87.8%</p>	A	<p>部活動への参加を全員必須としていないことや完全下校時間の徹底などにより、集中力や個人の判断による責任感の育成へとつながることができている。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動再編に向けた検討を始める。 	<p>本年度より文化部2部(英語部・食物部)を募集停止した。</p>	B	<p>学級減による職員定数減や生徒数減の実情に合わせ、部活動の在り方について、継続的に検討していく。</p>
エ	<p>芸術に対する関心・理解を深め、生涯を通じて芸術に親しみ愛することができる生徒を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を行い、合唱コンクールや潮音祭を安全に開催する。 	<p>合唱コンクールは、沼津市民文化センターを会場とし、コロナ禍以前と同様の実施形態とした。潮音祭も来場者等の制限を設けることなく実施した。</p>	A	<p>本校の伝統行事として、年度当初のクラスづくりの意味合いにおいても有意義なものとすることができた。潮音祭では生徒会執行部が中心となり、様々な企画を提案し、各種催しを工夫して行った。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・各専攻が企画する演奏会や展覧会、地域貢献活動等の目的や意義を理解し、「意欲的・主体的に取り組んだ」と回答する生徒90%以上 	<p>「意欲的・主体的に取り組んだ」と回答した生徒91.5%</p>	A	<p>小中学校での指導や商店街でのパフォーマンス等、各専攻で計画的に演奏会、展覧会、地域貢献活動を実施した。芸術科行事の意義をしっかりと考えて理解し、意欲的かつ主体的に取り組むことができた。生徒の情操面への感化等、学校全体の特色化の意味からも、より魅力的なものとなるよう検討を加えていきたい。</p>
オ	<p>地域の特色や課題に対する理解を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究スキルが向上した」と回答する生徒80%以上 	<p>「探究スキルが向上した」と回答した生徒67.4%</p>	B	<p>県教委の「イノベーションハイスクール事業」の指定の完成年度となる。各学年にてプレゼンテーションまで探究活動を</p>

様式第3号

	深め、探究的な態度で課題解決に取り組むことができる生徒を育成する。	・「ボランティア活動や地域の活動に参加したことがある」と回答する生徒70%以上	「ボランティア活動や地域の活動に参加したことがある」と回答した生徒75.4%	A	まとめた。1月には沼津城北高校との合同発表会を行い、活動のまとめとすることができた。 千本浜や近隣のクリーン作戦や千本小学校での読み聞かせ等、学校全体や部活動、有志による取組等、充実した活動を行うことができた。
カ	異文化や多様性に対する理解を深め、グローバルな視点で考え行動することができる生徒を育成する。	・国際交流を通して異文化、多様性への理解関心が深まったと回答する生徒90%以上	海外語学研修は本年度も実施できなかったが、7月に台湾より訪問団を受け入れて交流を行った。	B	7月に台北市立内湖高級中学の訪問団を受け入れ、有志にて交流を行った。限られた機会ではあったが、異文化理解への興味・関心、英語学習への意欲は興味・関心は高まった。来年度の訪台へ向けての計画が進行中である。
		・「SDGsの目標を意識するようになった」と回答する生徒80%以上	総合的な探究の時間において、教材の一つとして(1年)、班ごとのテーマに取り込んで(2年)実施した。	B	1年生は「沼津活性化プロジェクト」の一環として、2年生は各班の探究テーマとして選択し、取り組むとともに、教科での教材として取り扱った。日常への落とし込み、身近な問題としての意識の育成が課題である。
キ	安全・安心な学校づくりを目指して、教育環境、施設の点検や整備を確実に実施する。	・学校はいじめ防止等を含め「安心安全な学校づくりを推進している」と回答する保護者80%以上	安心安全な学校づくりを推進している」と回答した保護者66.6% 「判断材料がなくて回答できない」保護者17.3%	B	学校の取組みを知らない保護者は昨年度に比べて増加した。HPやInstagram等のメディア、PTA総会・地区会等の行事等、積極的な情報発信により、理解へ向けての努力が必要である。
		・「防災避難訓練等により、防災に関する知識・技能が高まった」と回答する生徒75%以上	「防災避難訓練等により、防災に関する知識・技能が高まった」と回答した生徒82.8%	A	防災訓練をコロナ禍以前の形に戻し実施した。内容の工夫により、効果的な訓練を行うことができた。
		・「登下校の際、交通ルールやマナーを守れている」と回答する生徒90%以上	「登下校の際、交通ルールやマナーを守れている」と回答した生徒98.0%	A	全校集会による指導や登校指導、街頭指導を継続的に実施した。登下校時に指導を受ける者への継続的な指導、自転車乗車時のヘルメット着用努力義務化への一層の対応等が課題である。
		・定期的に施設点検を行い情報共有する。危険箇所については修繕の早期実現を目指す。	毎月1回以上点検を行い、軽微なことも情報共有した。危険度を優先して修繕を行った。	B	定期的に点検を行い情報共有することができた。危険箇所については早期解消に努めた。予算が少なかつたため、全てを解消することができなかった。
ク	教育活動の充実と教職員の多忙化解消のため、業務改善を着実に推進する。	・「担当業務において、内容の見直しを行った」と回答する教員90%以上	「担当業務において、内容の見直しを行った」と回答した教員86.8%	B	昨年と比較して業務内容の見直しに取り組んだ職員が増加した。時間外在校時間の縮減に繋げるため、組織の改編や業務の精選を行った。多忙化解消や業務改善へ向けて継続的に取り組む必要がある。